



ゆめタウン 南岩国店(岩国市)

2002.11.14 OPEN
岩国市南岩国1丁目20-30
OPEN/10:00~21:00



取材に応じてくださった方
青果主任・岩本 哲彦さん

月1回は招待会を開いて、生産者の方等に来てもらっています。実際に作っている人に来てもらうのが一番なんです。安心感が生まれるし、生産者の方も自慢の農産物に対するお客様の反応を見ることが出来る。もっと生産者の方には前に出てほしいですね。

夕食の準備に新鮮な食材を求めて訪れる消費者。



新鮮なトマトがもうすぐ届きます。

みんなの販売協力店

「県産農産物販売協力店」は、地元消費者のみなさんに県産農産物をより身近に感じてもらい、利用しやすいように、生産者・流通業者・販売者が一緒になって作っています。このコーナーでは、「販売者」の方に焦点を当て、「やまぐちコーナー」をよりよいものにするための取

り組みや、今後の抱負など、販売者からの声をお伝えいたします。

「県産農産物販売協力店」の情報は、見つけて！やまぐち農産物愛用推進委員会のホームページ「見つけて.net」にも掲載しています。こちらもあわせてご覧下さい！↓ホームページアドレス↓
<http://www.mitsumete.net>



青果主任・岩本さん

やまぐちコーナーは「こんな商品があったのか」という地元商品を紹介する場でもあると思っています。たとえば、錦町のわさび。今まで生わさびを食べたことなかった方がやまぐちコーナーで実際に手に取って、試食することで、その美味しさを発見することが出来る。もう一つの特色は「鮮度」。このコーナーでは、その日に入荷したものは価格調整をするなどして、必ずその日に売り切るようにしています。生産地が地元であるだけに、お客様は本場に採れたての農産物を買うことができます。



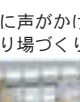
(左)店長・柏木さん(右)青果バイヤー・小田さん

「やまぐちコーナー」の結果が出るまでには、半年から1年ほど時間が必要です。何をやるにしても定着するには時間がかかるものですが、じわじわ浸透している感がありますね。「ゆめタウン」は大きな会社だから、どうしても制約が多い面があります。でも、この「やまぐちコーナー」はかなり自由にやれる部分がある。そういう意味でもやりがいも責任もある思い入れのあるコーナーです。自分たちが頑張った分だけ、直に返ってくる。逆に自分たちがさぼったらダメになってしまう。これからはもどだけ地元を大切に紹介していきけるか大事なポイントになると思っています。

中央フードは40年以上岩国地区で営業しており、もともと地元の商品を積極的に取り扱ってきました。これからお客様の声を常に取り入れ、小回りのきく地元重視のスーパーでありたいと思います。うちでは「やまぐちコーナー」目当てで来店されるお客様もいます。お客様とコミュニケーションしやすい売り場づくりをしているので、朝市的な雰囲気が出せればそれが一番よい形だと思っています。生産者の方が「こんなのできたよ」と、野菜を持ち込んでもらえるようになれば非常に効果的ですね。こうした場合に難しいのは、やはり安定供給の問題。農産物の収穫時期は集中しやすく、できたときは大量に入荷します。特に地元産に限定するとますます時期が集中しやすい。農産物に旬があるのは当然ですが、その中でもできるだけ長い間お客

様に食べて頂けるよう、生産者に出荷時期の調整をお願いしています。これからの時期は由宇町のトマトが最盛期。昨年も途中で入荷数が足りなくなる程人気が高かったため、今年はお客様がごっかりさせないよう充分に仕入れ、多くの人に地元の商品のおいしさを味わってもらいたいと思います。将来的には、中央フード全店舗に「やまぐちコーナー」を設置していきたい。そのためにまず岩国の地元の商品の確保が大切。一度に手を広げすぎるとダメになってしまうから、現在は安定供給のために入荷時期や入荷数の流れをスケジュールに組んでみている状況です。実際の流れを参考にしながら、これからの「やまぐちコーナー」をより充実したものにするために取り組んでいきます。

お客様からも気軽に声かけられるアットホームな売り場づくり。



中央フード 山手店(岩国市)

2002.10.31 OPEN
岩国市今津町1丁目4-8
OPEN/9:00~22:00



取材に応じてくださった方
店長・柏木正孝さん
青果バイヤー・小田佳則さん

防府サティ(防府市)

2002.11.12 OPEN
防府市中央町1-3
OPEN/10:00~23:00
(食品階のみ)



取材に応じてくださった方
農産グループ長・逢坂 吉記さん



農産グループ長・逢坂さん

山口県産野菜の特設コーナーを設けています。お客様からの反応もよいようです。同じ商品でも県内産、県外産、外国産を並売すると、やっぱり県内産を取られるお客様が多いですね。品質を求めているお客様が多いと思います。店に参加しました。

防府サティが販売協力店になったのは昨年の秋。それ以前からJA防府とくちの農産物のコーナーはあったんですが、より本格的に取り組むということでも協力店に参加しました。

問題点としては、店の規模が大きいので量を売る必要があること。需要に対して供給が追いつかない。地元野菜が揃わないという現実があります。また、同じ品を比べてシビアに見たとき、他県産のものの方がいい場合もある。できるだけいい商品を出荷できるように、生産者にももっと積極的に声をかけていきたいと思っています。

具体的にはお客様への試食を行うことで、味のご提案をしていきます。生産者の方に来ていただいで、地元野菜への思いをお客様に伝えていきたい。今までも稀少品として徳地特産の「やまのいも」を試食販売して好評でしたし、最近では防府のイチゴ量り売りが人気を集めました。こういう稀少品は店としても売りになりますし、今後も積極的に取り組んでいきたいと思っています。



新鮮な地元野菜が並ぶ防府サティの「やまぐちコーナー」。



本誌の差し込みでは販売協力店一覧を一挙掲載しています。ぜひチェックして、訪れてみてくださいね！